

高坂弾正と明德寺の寺宝

高坂弾正忠昌信 (春日虎綱)

大永 7年 (1527) - 天正 6年 (1578) 6月 14日

『甲陽軍鑑』によると、石和 (山梨県笛吹市) の大百姓春日大隅の子で、天文 1年 (1542) に亡父の遺領をめぐる義兄との訴訟に敗れたが、そこで信玄の目に止まり、近習に取り立てられたという。天文 2年に足軽大将に抜擢され百騎を預けられ、弾正と称した。

天文 22年には小諸城代、弘治 2年 (1556)には海津城代に任命され、三百騎を預かることとなり、永禄 2年 (1559)には香坂を名乗り、同 3年ころ海津城代となり、川中島衆を率いて上杉氏の監視役を担った。武田氏の川中島衆へや海津城への朱印状では虎綱が奏者になっている。同 4年に高坂氏が上杉謙信に内通し成敗されたため、高坂の名跡を与えられて高坂弾正と称したとされる。永禄 9年 9月までには春日姓に戻った。

天正 6年 (1578)に上杉謙信が死去すると、武田信豊とともに武田・上杉の和睦成立交渉に尽力したが、その最中に死去。

長篠敗戦後、武田氏の行く末に危機感を抱いた虎綱が、甥春日惣二郎らに口述筆記させたものが、『甲陽軍鑑』の原本だといわれる。

明德寺

長野市松代町豊栄にある明德寺は、明德元年 (1390)に僧妙徳が建立したとされ、武田の海津城代 高坂弾正 (春日虎綱) の墓がある寺。寺伝によれば、高坂弾正の帰依が篤く、天文 2年 (1533)に諸堂を修理して重興開基となったとあり、『高坂弾正忠昌信伝記』など、弾正に関連する遺物も伝わる。

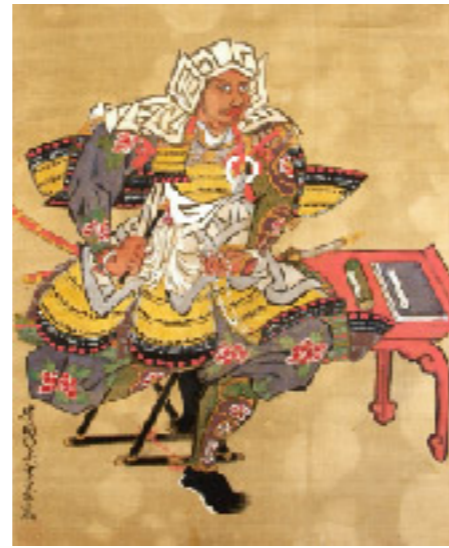
本尊は鎌倉時代の作とされる釈迦如来。本堂の裏には、ヒキガエルが産卵のために群集する『蛙合戦』の池などがある。



伝高坂弾正所用の鎧 (明德寺蔵)
高坂弾正使用と伝わる鎧。左右で模様が異なっており、本来は別々のものと思われる。



高坂弾正の墓 (明德寺境内)
お守りとして墓石の一部が削り取られている。



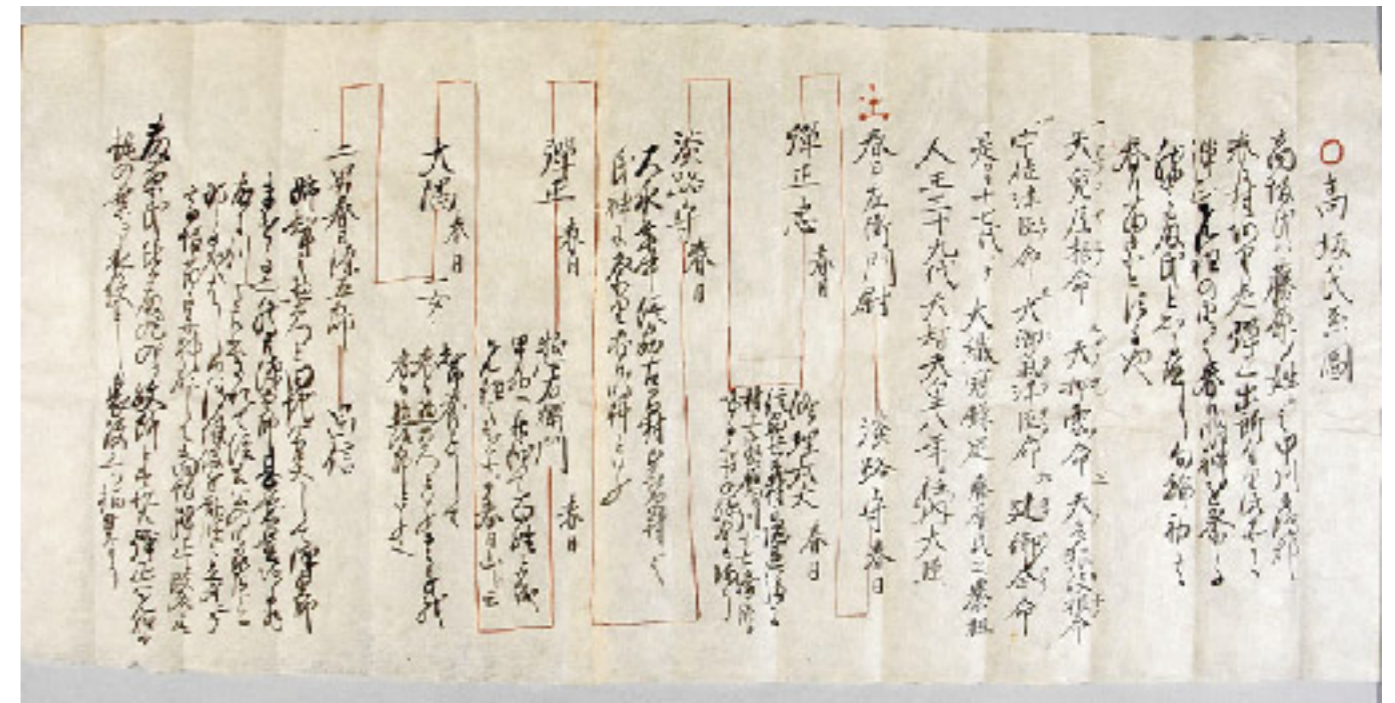
伝高坂弾正像 (明德寺蔵)
背景の文机上に巻物や軍学書と思われる書物が描かれており、軍学者であった高坂弾正を描いたと思われる。

絵師は守周で8歳と書かれる。守周については不詳。地元の絵師と思われる。



高坂昌信公傳記 (明德寺蔵)
『甲陽軍鑑』元文三年 (1738)に刻まれた弾正の銘文・金沢藩士有澤九八郎が明德寺に納めた『高坂昌信伝』現在の墓誌といった高坂弾正に関する様々な古記類を写し、まとめたもの。
『甲陽軍鑑』の筆者という伝承が、江戸時代に高まり、高坂弾正の顕彰が行われる過程がわかる。

長野市立博物館
〒381-2212
長野市小島田町八幡原史跡公園内 026-284-9011



高坂弾正系図 (明德寺蔵)
明德寺に伝わる高坂弾正昌信 (春日虎綱) の系図。

